

秋田県スポーツ少年団育成5カ年計画

-----> 準備期間 > 実施期間

施策項目	H28 (1年次)	H29 (2年次)	H30 (3年次)	H31 (4年次)	H32 (5年次)	担当部会等 (○印は、主担当)	備考
1 組織の基盤強化 (1) 「団活動の指針」の見直しと徹底 ① 対外試合・大会参加数の制限(上限)設定 ② 中体連に足並みを揃えた活動休止日の設定 ③ 県登録規程の内規設定 (2) 「倫理規程」の見直しと徹底 ① 日本本部の処分基準の導入 (3) 関係機関・団体等との連携強化 ① 学校及び行政機関との連携強化 ② 競技団体及び総合型地域スポーツクラブ、青少年団体等との連携強化						○ワーキンググループ、指導育成部 ○ワーキンググループ、指導育成部 ○総務部、事務局 ○総務部、指導育成部 ○ワーキンググループ、指導育成部、指導協 ○指導育成部、指導協、競技委員会	・競技団体との合意形成が必要。 ・競技団体との合意形成が必要。 ・指導者の処分については、日本本部の「登録者処分基準」に従う。 ・県スポーツ推進審議会「提言」の実施
2 指導者・リーダー養成及び指導体制の拡充 (1) 指導者資格の取得促進 ① 各単位団複数有資格者の継続配置 (2) リーダー資格取得促進及びリーダー活動の充実 ① リーダー未設置市町村への設置働きかけ ② リーダー・リーダーOBの活躍の場の開発 (3) 指導者・育成母集団の研修促進 ① 有資格者等再研修の義務化 ② 低年齢化の拡大に伴う研修内容改善 ③ 暴力根絶のための研修・キャンペーン実施						○指導育成部、指導協 ○リーダー育成プロジェクト、指導育成部 ○リーダー育成プロジェクト、指導育成部 ○指導育成部、指導協 ○指導協、指導育成部 ○指導育成部、指導協	・100%有資格者複数配置の継続 ・リーダー登録の数値目標を設定する。 ・日本本部第10次育成計画の方針に従う。
3 活動の充実 (1) 団員の加入及び継続活動充実、キャンペーン実施 ① 新規団員の獲得 ② 中・高生の活動継続の促進 (2) 活動プログラムの研究・活用 ① アクティブ・チャイルド・プログラム等の普及 (3) PR活動の充実・強化 ① 「スポーツの楽しさと豊かさを求めて」改訂・活用 ② 末端に伝わるチラシ・リーフレット等の推進 ③ ホームページ等のコンテンツ強化 (4) 大規模交流イベントの実施 ① 全国スポーツ少年大会等招聘 (5) 2020東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取組 ① 「フェアプレイ宣言及びフェアプレイ大賞」参画の奨励 ② 「あくしゅ・あいさつ・ありがとう」の推進						○活動開発部、広報普及部 ○活動開発部、ワーキンググループ ○指導協、活動開発部 ○広報普及部 ○広報普及部 ○広報普及部 ○総務部、活動開発部 ○指導協、活動開発部 ○指導協、活動開発部	・ACP指導者養成講習会を実施し、養成されたACP指導者は、各市町村や単位団でのACP普及・活用実践者となる。 ・日本体育協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに参加する。

※「アクティブ・チャイルド・プログラム」は、日本スポーツ少年団が推奨する発達段階に応じた身体操作能力を獲得するための運動プログラム。略称、ACP。